
編集後記

身の周りで時々経験することですが、自分があるレベルに達していないと、その場の知識を全く吸収できないことがあります。もし、自分があるレベルに達していれば、その場で新しく聞くことであっても理解して吸収し自分の蓄えにできます。そのレベルが何で決まりどこにあるかは、対象分野によっても異なるでしょうが明確ではありません。例えば、英語であれば、ある程度の英会話を理解できると、会話の中で分からない単語があっても、話の腰を折らずにその意味を相手に聞くことができます。ドイツ語では、名詞に格変化があるので、その規則を知っていれば辞書を用いて自分で調べることができます。工学系の専門であれば、「周波数成分の概念」を知っていれば、フィルタリングやスペクトルに分解して解析する話を吸収できます。「マクスウェルの方程式」を知っていれば、電磁気学の新しい研究を理解できるかもしれません。「電子回路を作った経験」があると、いまデジタル信号処理で苦労している課題を、アナログ回路を作って解決しようと幅広く考えられるかもしれません。計算機分野でいえば、計算機やソフトウェアがどう動いているかの知識があれば、新しいソフトのインストールの途中で躓いたときに、とんでもない方向に行くこともないと思います。

結局、「それぞれの分野ごとに自分なりの籠さえ持てば、その籠に知識という果実を自ら蓄えることができ、益々吸

収し、好循環という理想的な状態に入ることができる」ということでしょう。そういう籠を複数持てば、人生はずっと楽しくなります。しかし、自分なりの籠を手に入れるのは手間も掛かります。大学の専門科目もそのためにあるでしょうが、その後の人生を充実して生き抜くためには、大学の専門以外にも多くの籠が必要でしょう。

インターネットが発達し、調べたい言葉さえあれば簡単に検索できる時代になりましたが、自分が籠を持ち合わせない分野であれば、検索した言葉を含む自分の頭の中の「概念」に、いま検索した言葉を付加することも難しいでしょう。これは最近の便利なインターネット事情をみての感想です。結局、得られた知識を将来活用できるように理解するという事は、その知識の周囲まで自分自身で十分消化し、単なる知識とは異なる「概念」を自分の内側にもつことにほかにありません。この「概念」は、検索された言葉や他の人の著書を一読しただけでは決して構築できないものではないかと思います。しかし、こうした概念をしっかりとつことが、人生や研究においてとても大切なことと思います。

金井 浩

東北大学大学院工学研究科電子工学専攻
／医工学研究科医工学専攻

超音波医学

Japanese Journal of

Medical Ultrasonics

第43巻 第4号 (通巻第294号)

© The Japan Society of Ultrasonics in Medicine

—禁転載—

本体価格 2,000円+税 (本誌購読料は会費に含まれます。)

平成28年7月15日発行

編集者 公益社団法人日本超音波医学会編集委員会 委員長 金井 浩

発行者 公益社団法人日本超音波医学会 理事長 工藤 正俊

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-23-1

お茶の水センタービル6階

TEL 03-6380-3711

FAX 03-5297-3744

印刷所 大村印刷株式会社